

インターバンクの声（2016 年 6 月 8 日）

先週末は 5 月の米雇用統計、そして週明けもイエレン米連邦準備制度理事会 (FRB) 議長の講演と、相場が影響を受けやすいイベントが続いた。就業者数の伸びが予想外に低調だった雇用統計発表直後こそ 2 円以上も円高が進んだドル/円だが、その後の値動きはめっきりおとなしくなってしまった。期待したほどの相場変化もなく、ドル/円の取引から収益を生み出すのはプロ、アマ問わず難しい時期のようだ。そのため、取扱いを決して容易ではないが、足許で激しい値動きを求めるなら、今の旬の通貨は英ポンドだろう。何しろ欧州連合 (EU) からの離脱・残留の是非を問う国民投票が 6 月 23 日に予定されているため、ちょうど一ヵ月位前から 1.43 ドルから 1.47 ドル台の間で何度も乱高下を続けているのだ。この間のポンド相場は、乱暴に言ってしまうと、この国民投票の行方を占う複数の世論調査会社からの離脱支持派と反対派の優勢・劣勢の報告が出てくる度に変わっているのだ。来週の米国と日本の政策変更には期待値が下がってしまっており、市場の注目は 23 日に実施される英国民投票に向かっている。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。